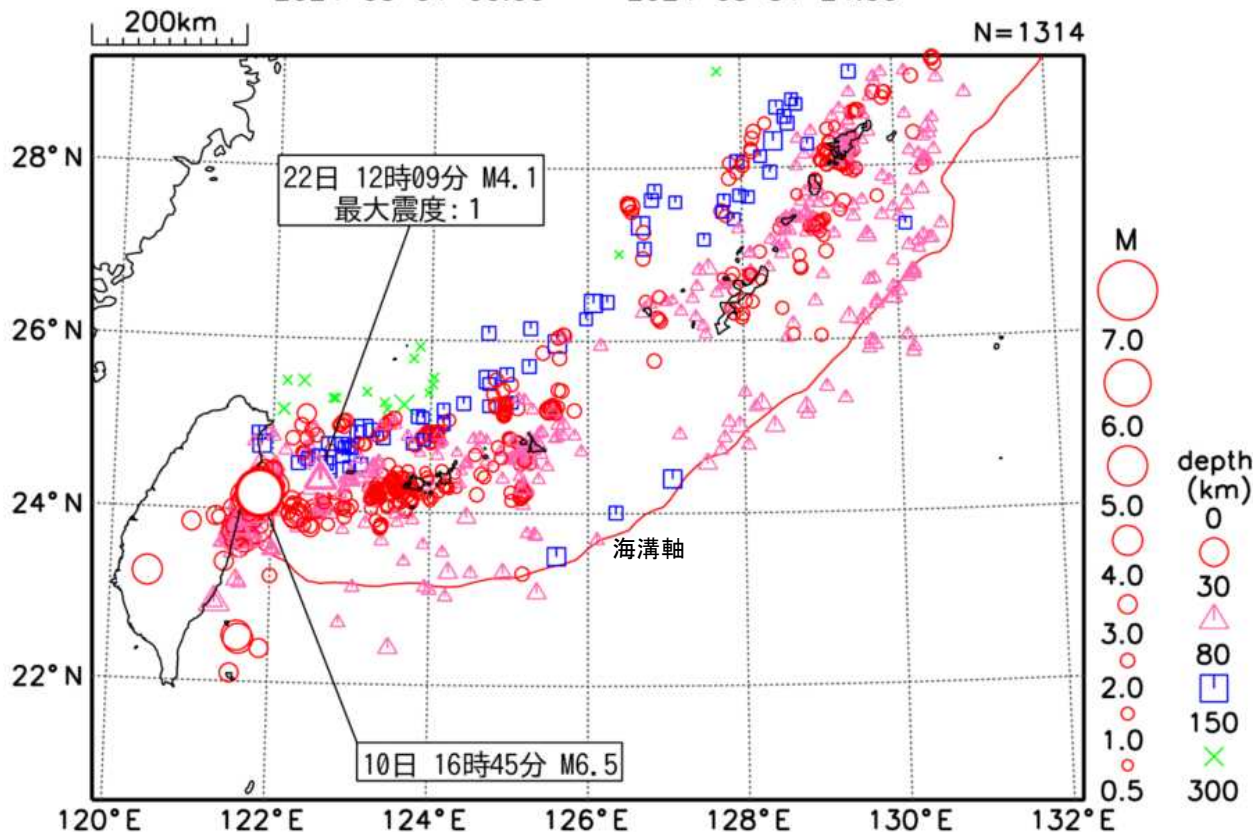


沖縄地方の地震活動 令和6年（2024年）5月

沖縄気象台

図1 沖縄県及びその周辺の震央分布図

2024 05 01 00:00 -- 2024 05 31 24:00



図中の記号 M: マグニチュード depth: 震源の深さ
N: 地震の回数 (マグニチュード0.5以上の回数です)

[概況]

今期間に沖縄県内で震度1以上を観測した地震は1回（4月は12回）でした。

5月の主な活動は次のとおりです。

10日16時45分に台湾付近の深さ13kmでM6.5の地震（日本国内で震度1以上を観測した地点なし）が発生しました（別紙参照）。

この地震により気象庁は、16時52分に宮古島・八重山地方に津波予報（若干の海面変動が予想されますが、被害の心配はありません）を発表しました。

図 2 - 1 沖縄本島付近の震央分布図及び断面図

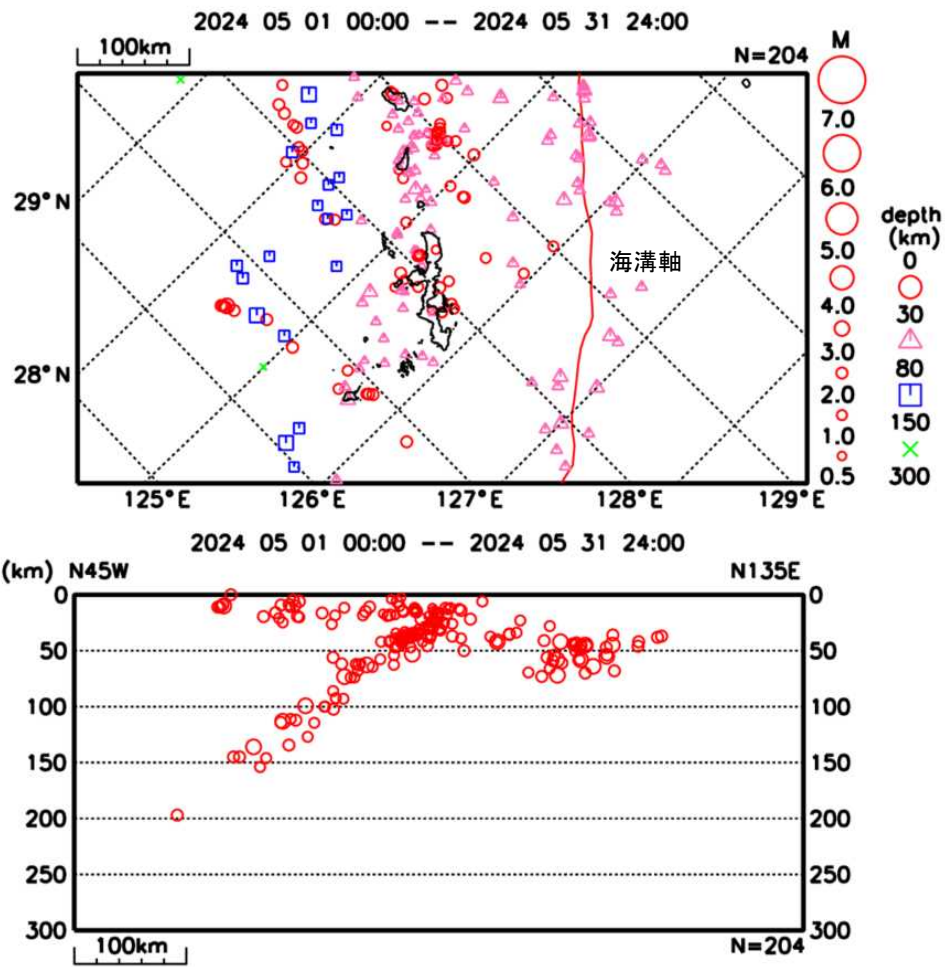


図 2 - 2 宮古・八重山諸島付近の震央分布図及び断面図

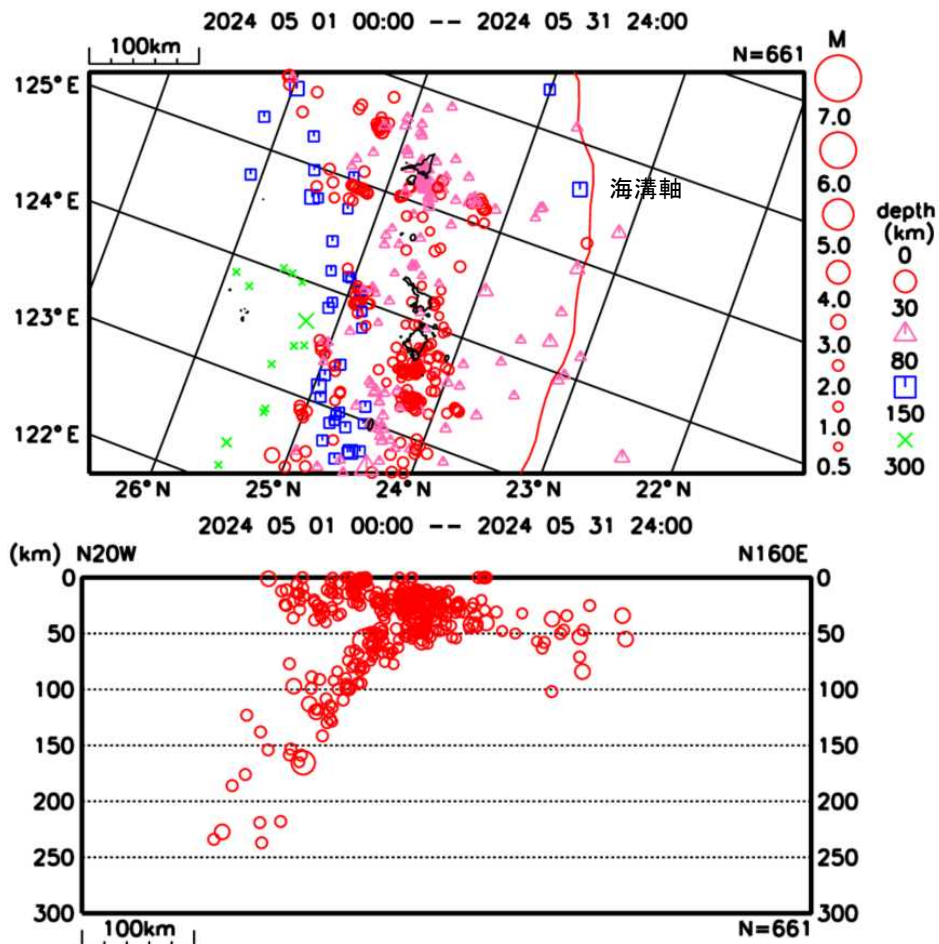
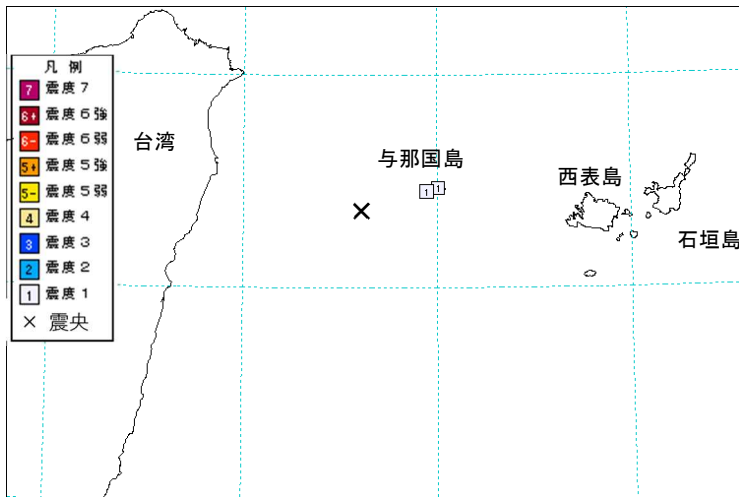


図3 震度分布図



5月22日12時09分 与那国島近海 深さ60km M4.1

表1 沖縄県内で震度1以上を観測した地震の表（期間5月1日～5月31日）

震源時 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	規模
2024年05月22日12時09分 沖縄県	与那国島近海 震度 1：与那国町久部良, 与那国町役場*	24° 21.6' N	122° 36.7' E	57km	M4.1

*の付いた地点は気象庁以外の震度観測点です。

※沖縄地方以外に震度が観測された場合は、その震度も記載します。

※ 資料中のデータについて

この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

※ 概況中の震源の深さについて

震源の深さは、精度がやや劣るものは表記しないことがあります。

※ データについては精査により、後日修正することがあります。

詳細は沖縄気象台ホームページで閲覧できます。

URL <https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/jishin/quake.html>

震度1以上を観測した地震の震度分布図は、気象庁ホームページ「震度データベース検索」でご覧になれます。

URL <https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.html>

地震・津波・火山に関する防災一口メモ

URL <https://www.data.jma.go.jp/okinawa/know/memo/sougou.html>

本件に関する問い合わせ先：沖縄気象台地震火山課 098-833-4295

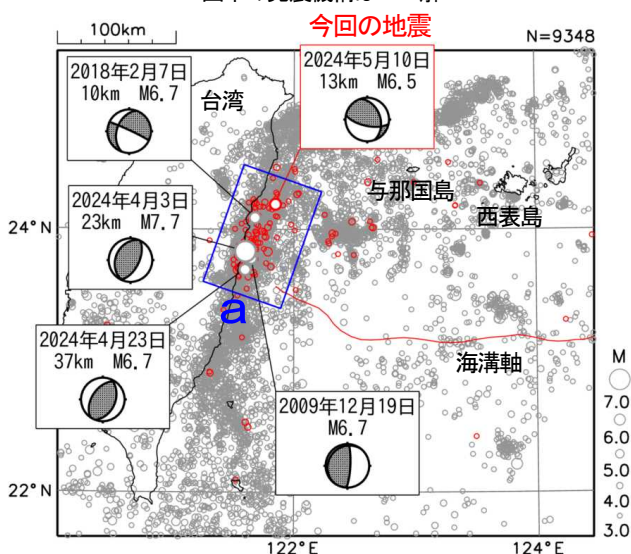
5月10日 台湾付近の地震

震央分布図

(2009年9月1日～2024年5月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 3.0$)

2024年5月の地震を赤く表示

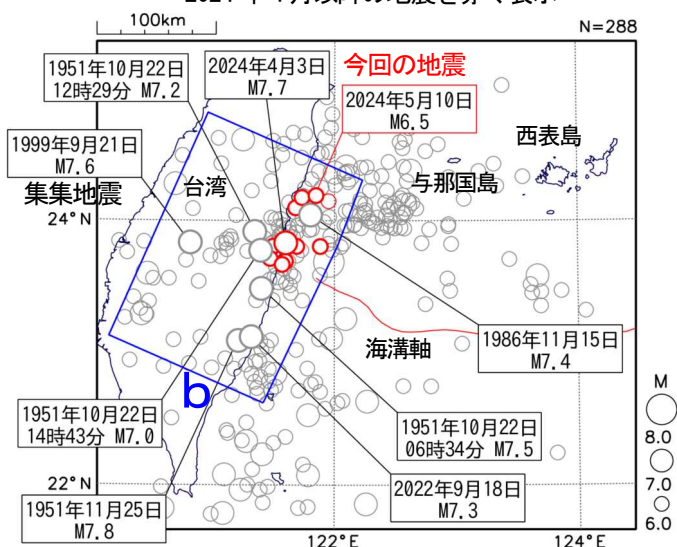
図中の発震機構はCMT解



震央分布図

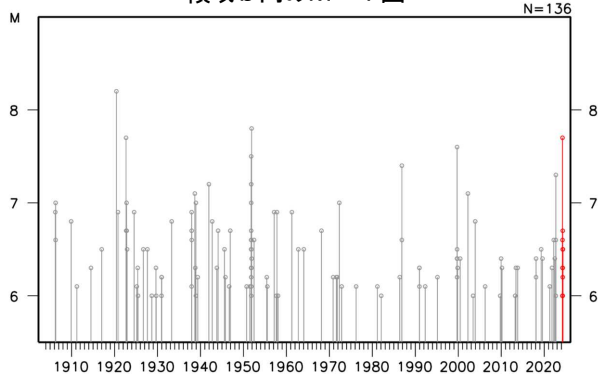
(1904年1月1日～2024年5月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$)

2024年4月以降の地震を赤く表示



2018年までの震源要素はISC-GEM、2019年以降の地震の震源要素は気象庁による。

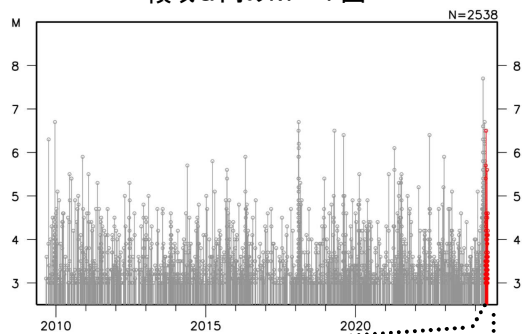
領域b内のM-T図



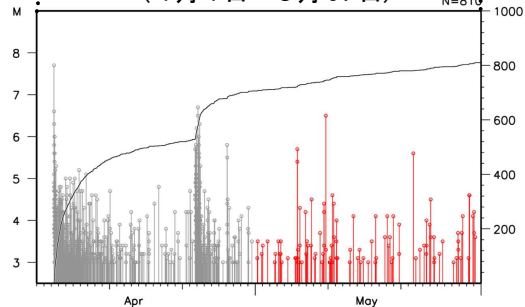
2024年5月10日16時45分に台湾付近の深さ13kmでM6.5の地震(日本国内で震度1以上を観測した地点はなし)が発生した。この地震の発震機構(CMT解)は、北東-南西方向に圧力軸を持つ型である。この地震の震央付近(領域a)では、4月3日08時58分にM7.7の地震(国内で観測された最大の揺れは震度4)が、4月23日にM6.7の地震(日本国内で震度1以上を観測した地点なし)が発生するなど、地震活動が活発化している。

2009年9月以降の活動をみると、この地震の震央付近(領域a)では、2009年12月19日のM6.7の地震(日本国内で観測された最大の揺れは震度3)や、2018年2月7日のM6.7の地震(日本国内で観測された最大の揺れは震度2)が発生するなど、M6.0以上の地震が時々発生している。

領域a内のM-T図



領域a内の回数積算及びM-T図 (4月1日～5月31日)



1904年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、過去にM7.0以上の地震が時々発生している。1951年10月から11月にかけてM7.0以上の地震が4回発生した。1986年11月15日にM7.4の地震(日本国内で観測された最大の揺れは震度3)により、宮古島平良で30cmの津波を観測し、台湾では死者13人、負傷者45人などの被害があった。1999年9月21日に集集地震(M7.6、日本国内で観測された最大の揺れは震度2)が発生し、台湾では死者2,413人、負傷者8,700人などの被害があった。また、2022年9月18日にM7.3の地震(日本国内で観測された最大の揺れは震度1)では、宮古島・八重山地方に津波注意報を発表したが、津波は観測されなかった(被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による)。

大きな揺れ、津波警報、そのときどうする！？

—津波から身を守るために—


震度 4 を観測

2024年4月3日08時58分に発生した台湾付近を震源とする地震で、与那国町で震度4を観測したほか、宮古島から与那国島にかけて震度3～1を観測しました（沖縄本島では、震度1以上の観測はありませんでした）。また、気象庁はこの地震に対し、同日09時01分に沖縄本島地方及び宮古島・八重山地方に津波警報を発表しました。

【各地域の震度】



こんなとき、津波から避難！

- ◆強い揺れを感じた。
- ◆弱くても長い時間ゆったりした揺れを感じた。
- ◆大津波警報、津波警報、津波注意報を見聞きした。
- ◆津波フラッグ  を見た。

海の近くでどれか1つでも当てはまったら、海辺から離れて、安全な場所にすぐに避難しよう！

避難の手段は？

車を利用した場合、渋滞などにより円滑に避難できない場合があります。「**原則、徒歩で避難**」しましょう！

（ただし、要配慮者や弱者の避難など、徒歩での避難が困難な事情もあることから、事前に地域などで避難方法の手段の調整・訓練で確認するなどしておきましょう！）。



津波からすぐに避難するためには？（事前準備が重要）

- 危険な場所を確認しよう！**
海から離れていても、川に沿って津波が襲ってくることもあります。自宅や学校、職場の周辺などで津波に襲われるおそれのある場所をハザードマップや周囲の地形・標識から確認しておきましょう。
- 避難場所を確認しよう！**
津波避難場所や避難ビルがどこにあるか、また避難経路などを周りの人と確認しておきましょう。
避難場所は1ヶ所だけでなく、さらに高い場所にあるところも調べておきましょう。
- 訓練に参加しよう！**
実際に避難経路をたどってみるなど、積極的に訓練に参加しましょう。



津波が来ても安全な場所

[沖縄県公式ホームページより]



地震に関する情報は

沖縄气象台ホームページまで

<https://www.data.jma.go.jp/okinawa/index.html>

沖縄气象台

検索

